

Großes
Japanisch-Deutsches
Wörterbuch

文學博士 木村謹治著

和獨大辭典

東京博友社

和 独 大 辞 典 (背革特装)

昭和 27 年 4 月 20 日 初 版 発 行
昭和 47 年 5 月 15 日 20 版 発 行



定 価 6,000 円

© 著 者 木 村 謹 治

東京 都 新 宿 区 揚 場 町 九

発 行 者 小 野 慎 一 郎

東京 都 新 宿 区 揚 場 町 九

発 行 所 株 式 会 社 博 友 社

振 替 口 座 東 京 二 四 〇 番

電 東 京 268-8271 (代)

郵 便 番 号 1 6 2

落丁・乱丁がありましたら、直接博友社へ
お申出下さい。お取り替え致します。

近藤写真製版所製版・開成印刷株式会社印刷・山田製本

Printed in Japan.

3584-1153-6920

序

本書は、もと博文館の手によって刊行されていた「和独大辞典」を、そのままの形で復刻したものであるが、著者であるわたくしの父はすでに他界しているので、わたくしが代って一言復刻に至るまでの経緯を述べておきたい。

本書の初版が世に出たのは今から十五年前、昭和十二年の春であるが、その後もいくたびか版を重ね、我国のドイツ語界に多少の貢献をなし得たのみならず、遠くドイツその他の諸外国に於てもかなりの数の利用者を見出したことは父にとって望外のよろこびであった。しかるに今度の大戦に際し、本書の原版は戦火を受けて烏有に帰し、その後発行所である博文館も種々の事情のためその事業を廃するに及んで、本書の刊行は中絶のやむなきに至ったのである。わたくしは、父のこの旧著が今もなおその価値を失っていないと信ずるが故に、ひそかにその再刊を願っていたけれども、他方、現在の困難な出版事情にかんがみて、この願望の実現は少くとも近い将来に於ては不可能に近いことを思わざるを得なかった。しかし幸いにしてわたくしの予期は外れ、本書の新版は意外に早く世に出る運びとなった。すなわち旧博文館の事業を継承された博友社が、本書の出版が中絶していたことを深く遺憾とされて、多大の犠牲の上になんて本書の復刻を思いたれたのである。さきに相良守峯博士と父との共著「木村・相良・独和辞典」の再刊に尽力され、今また本辞典の復

刻を敢行された博友社に対し、心からお礼を申しあげたい。

更に本書の印刷を引受けられた印刷会社、本書のために特に良質の用紙を提供された製紙会社に対しても併せて謝意を表する次第である。

本書は父が昭和八年春から約四年の日子を費し、多大の苦心を払って完成したものであるが編纂に際して多数の方々から献身的な御援助を寄せられたことをここに特筆しておかなければならない。即ちそれは、助手として編纂に参画された丸山武夫・矢野純臣・星野慎一・小島尚の諸氏、原稿の校閲及び校正に援助を惜まれなかったErwin Jahn博士ならびにHertha Jahn夫人、校正に力を致された妹尾泰然・神波比良夫、その他多数の方々である。これら諸学者のうるわしき御協力を俟たずしては、本辞典の完成は到底望み得なかつたであらう。旧版に於けると同様、ここにもそれらの方々の御芳名をかかげ、謝意の一端を披瀝させて頂く所以である。

大戦の結果、国際政治に於けるドイツの地位は一変したけれども、輝かしい伝統に培われたドイツ語そのものの意義と価値とが失われたとは考えられない。少くとも偉大な文学語・科学語としてのドイツ語、欧州精神史上に、また科学史上に不朽の名をとどめた天才たちの魂をゆたかに育んだ言語としてのドイツ語は、今後もお依然として多数の学徒の関心をひくことをやめぬであらう。本書が、たといその成果は理想から甚だ遠いものであるにもせよ、我々の国語からドイツ語にかけわたされた一条のささやかな橋として、日独両国民の文化的交流にいささかなりとも貢献することができるならば、本書

の使命は立派に果されたのである。なぜなら、このことこそ、一個の古風なる愛国者としての父の念頭を片時も去ることのなかった切なる念願であったからである。

昭和二十七年三月

木村 彰 一

凡例

見出語 1. ローマ字の綴り方は下表に依る。

ローマ字綴り方表

ア	イ	ウ	エ	オ	リヤ	リュ	リョ
a	i	u	e	o	rya	ryu	ryo
カ(クッ)キ	ク	ケ	コ				
ka	ki	ku	ke	ko			
サ	シ	ス	セ	ソ			
sa	shi	su	se	so	ガ(グッ)ギ	グ	ゲ
	(si)				ga	gi	ge
タ	チ(テイ)	ツ	テ	ト	ザ	ジ	ゼ
ta	chi	tsu	te	to	za	ji	ze
	(ti)	(tu)				(zi)	zo
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ダ	ヂ	デ
na	ni	nu	ne	no	da	ji	de
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ		(di)	(du)
ha	hi	fu	he	ho	ファ	フィ	フェ
		(hu)			fa	fi	fe
マ	ミ	ム	メ	モ		(fu)	フォ
ma	mi	mu	me	mo		ン	fo
ヤ	イ	ユ	エ	ヨ			
ya	i	yu	e	yo	バ(ヴァ)ビ	ブ(ヴ)	ベ(ヴェ)
ラ	リ	ル	レ	ロ	ba	bi	bu
ra	ri	ru	re	ro		bu	be
ワ	ホ	ウ	エ	ヲ	ギャ	ギユ	ギョ
wa	i	u	e	o	gya	gyu	gyo
	(wi)		(we)	(wo)	ジャ	ジ	ジュ
					ja	(ji)	ju
					(zya)	(zi)	(zyu)
							ジェ
							je
							ジョ
							jo
							(zyo)
					ビヤ	ビユ	ビョ
					bya	byu	byo
パ	ピ	プ	ペ	ポ			
pa	pi	pu	pe	po			
キヤ		キユ		キョ			
kya	—	kyu	—	kyo			
シャ	シ	シュ		ショ			
sha	(shi)	shu	—	sho			
(sya)	(si)	(syu)		(syo)			
チャ	チ	チュ	チェ	チョ			
cha	(chi)	chu	che	cho			
(tya)	(ti)	(tyu)	(tye)	(tyo)			
ビヤ		ビユ		ビョ			
pya	—	pyu	—	pyo			
ヒヤ		ヒユ		ヒョ			
hya	—	hyu	—	hyo			
ミヤ		ミユ		ミョ			
mya	—	myu	—	myo			
ニヤ		ニユ		ニョ			
nya	—	nyu	—	nyo			

註 下段の括弧内は日本式ローマ字を示す。尙ほ日本式ローマ字に依れば チャ, チュ, チョの濁音は dya, dyu, dyo と記して シャ, シュ, ショの濁音 zya, zyu, zyo と區別すれども本書にてはいづれも ja, ju, jo にて表はした。


前掲の綴り方につき特に注意を要するものを示せば

- a) 長音は母音の上に長音符号 (-) を附して **ā** (アー), **ī** (イー), **ū** (ウー), **ē** (エー), **ō** (オー) の如くした。但し「イイ」は **ii** として「イー」と區別した。
 - b) 促音は、例へば **bessei** (別製), **fukko** (復古), **ittei** (一定), **kesshin** (決心) 等の如く、子音を重ねて示す。但し「チ」(**chi**) の音の前に限り **itchokusen** (-直線), **jitchi** (實地) 等の如く **t** をもつて之を表はす。
 - c) 撥音「ン」は一般に **n** を用ひ、**b**, **m**, **p** の前に來るときに限り **m** とした。
 - d) **dai-sōjō** (大僧正), **hito-maku** (一幕), **naga-naga** (長々), **shita-geiko** (下稽古) 等の合成語はハイフン (-) で切つて読み易くし、**kan-yū** (官有) の如きは **kanyū** (加入) と読み誤らぬために同じくハイフンをした。
 - e) **kwa** (クワ) は **ka** (カ), **kwō** (クワ) は **kō** (コー) とし、**ti** (ティ), **tu** (トゥ), **di** (ディ), **du** (ドゥ) の類はそれぞれ **chi** (チ), **tsu** (ツ), **ji** (ヂ), **zu** (ヅ) とし「ヴァイオリン」の **va** の類は **ba** に改めた。
2. 各見出語の次に國字とその品詞名を示し、品詞名は簡潔を期するため「略語解」に示した略字を用ひた。
 3. 外來語は大體日本語化した發音に依り、ローマ字綴りに直したものに依る。
 4. 同一の見出語で品詞の異なるものは次の如くにして之を表はした。
asaban (朝晩) @ *n.* Morgen und Abend. ④ *ad.* morgens und abends.

意義の分類


1. 同一語にして多くの意義を有するものは 1, 2, 3, 4...等の如く分類し、譯語、例句、例文をそれぞれの項に分ちて収録し、もつて意義、用法の徹底を期した。
ataru (當る, 中る), **kankei** (關係), **shinzuru** (信ずる), **tanomu** (頼む, 恃む) 等の諸項参照。
2. 同一語にして意義異なるも上掲の場合程細別を要しない時は (), () 等を利用して譯語の前後に註解を加へ

て連続的に配列した。「譯語」の條参照。

- 譯語** 1. 現代獨逸語を標準とし、詩語、學生語、俗語、卑語等も必要に應じて収録した。配列の順序は邦語の意義を追うて普通より特殊へ、易より難へとし、成るべく自然的ならしむる様意を用ひた。各譯語の境はセミコロン (;) とし、尙ほ他の譯語を参照すべき際には  印をもつて指示した。
2. 譯語中のイタリツク體にした語句は、梵語、ラテン語、希臘語、及びその他の外來語にして未だ完全に獨逸語化されぬものである。
 3. 名詞は能ふかぎり定冠詞を附してその性を一目瞭然たらしめた。
 4. 基本語に當る名詞の譯語にはすべて Der Große Duden に依つて第二格及び複數の形を明示した。
 5. 強變化及び不規則變化動詞には不定法に # 印の記號を附した。
 6. 分離、非分離動詞は之をアクセントをもつて區別した。
 7. 形容詞より轉來せる名詞には * 印を附してその性及び變化に一定の法則あることを示した。
 8. 數詞、代名詞等の一定使用法及び變化あるものの原形には △ 印を附した。
 9. 譯語のシラブルの切れ目に入れた || の記號は Arbeit||rin, pl. -rinnen の如く語尾が不規則變化をなすとき、シラブルの切れ目及びその後の變化を明示し又 (學友會) die Studenten||gesellschaft (=verbindung) の如く相並ぶ合成語の共通なる一部を省略する場合、共通なる部分と然らざる部分との境界を明らかにした。

例句、例文等 1. 例句の始めには ☆ 印を附して區劃した。

句の配列法は、名詞、形容詞、副詞、動詞の順を本則としたが、意義用法等を聯想的に容易ならしめる場合には適宜に順序を變更して敢て之に囚はれず、あくまで使用者の便を計つた。

2. 例句, 譯文の譯は直載にして簡明なるを旨とし, 敢て奇を求めず, 又能ふかぎり豊富に収録して應用の自在ならむ事を期した。尙ほ譯文が數例に及ぶときは普通なるものを先にする様に努めた。
3. 例句より例文に移る場合には行を改めた。
4. 同一原文に對する譯文が二種以上ある時には / をもつて區分した。而して譯文のニュアンスの相異にも場合に應じてそれぞれ説明を加へた。
5. 例句, 例文中他項を参照すべき場合には  印をもつて明示した。

括弧の用法

1. 角括弧〔 〕 既述せる如く同一語にして多義を有するものは 1, 2, 3… 等に分類したが, その各項にもし綜合的の意義あらば, それを表はすに用ふ。
abare (暴れ), **ataru** (當る, 中る) 等の諸項参照。
2. 丸括弧 () a) 各見出語の國字を示す。各譯語参照。
b) 見出語の譯語の分類を示す。**abazure** (阿婆摺), **abekobe** (あべこべ) 等の諸項参照。
c) 例句の意味の分類を示す。各例句参照。
d) 同一語に對して譯語が二種以上あるとき **oder** の意味に之を用ふ。**abareru** (暴れる), **abazure** (阿婆摺), **abekobe** (あべこべ) 等の諸項参照。
3. < > 形括弧 この括弧中に含まれた語句乃至文字は省略し得る事を示す。各項参照。
4. 二重括弧 《 》 原則として邦語, 獨逸語の如何を問はず, それに先行する語, 句, 又は文等の説明に用ふ。各項参照。尙ほ獨逸語中の二重括弧につき特に説明して置き度いのは
a) *js. Meinung* (*Gen.*) *sein* の如く先行する語の單なる説明である場合と,
b) *ermangeln* (*Gen.*); *es fehlen lassen* (*an Dat.*); *sich vermengen* (*mit Dat.*) 等の如く先行する語が他の語と共に用ひられる場合の使用法を示す場合とがあり, 最後の (*mit Dat.*) は *Dativ* と共に用ひられるといふ意味ではなく *mit* 及び *Dativ* と共に用ひられる意味である。

文法的配慮

1. 單に邦語に當る獨逸語を譯出したにとゞまらず、それが他の語と共に用ひられる場合の格の支配及び前置詞等詳細に亘つて附加説明した。
2. 再歸代名詞 *sich* はその場合に依つて三格となるときは特に *sich* (*Dat.*) と明示して四格の場合と區別した。
3. 状態を示す動詞と運動を示す動詞との區別を明かにした。

略語解

(品詞略語)

<i>adj.</i>	形容詞	<i>auxil.</i>	助動詞
<i>ad.</i>	副詞	<i>pref.</i>	接頭語
<i>v.</i>	動詞	<i>suf.</i>	接尾語
<i>n.</i>	名詞	<i>sing.</i>	單數
<i>coll.</i>	集合名詞	<i>pl.</i>	複數
<i>c.</i>	接續詞		
<i>prn.</i>	代名詞		
<i>int.</i>	感歎詞		

「てにをは」の類はすべて *particle.* とす。

(外國語その他)

《希》.....	希臘語	《露》.....	露西亞語
《羅》.....	羅甸語	《卑》.....	卑語
《梵》.....	梵語	《詩》.....	詩語
《英》.....	英語	《俗》.....	俗語
《佛》.....	佛蘭西語		

(獨逸語略語)

<i>j.</i>	<i>jemand.</i>	<i>Gen.</i>	<i>Genitiv.</i>
<i>js.</i>	<i>jemandes.</i>	<i>Dat.</i>	<i>Dativ.</i>
<i>jm.</i>	<i>jemandem.</i>	<i>Akk.</i>	<i>Akkusativ.</i>
<i>jn.</i>	<i>jemanden.</i>	<i>etw.</i>	<i>etwas.</i>

<i>od.</i>	oder.	<i>tr.</i>	Transitivum.
<i>usw.</i>	und so weiter.	<i>intr.</i>	Intransitivum.
<i>d. h.</i>	das heißt.	<i>p.</i>	Präterium.
<i>bes.</i>	besonders.	<i>p.p.</i>	Partizipium Perfekti.

(術 語 そ の 他)

宗.....	宗 教	數.....	數 學
倫.....	倫 理	化.....	化 學
論.....	論 理	物.....	物 理
哲.....	哲 學	醫.....	醫 學
心.....	心 理	兵.....	兵 語
經.....	經 濟	電.....	電 氣
法.....	法 律	航.....	航 海
音.....	音 樂	空.....	空 航
演.....	演 劇	工.....	工 學
植.....	植 物	機.....	機 械
動.....	動 物	建.....	建 築
貝.....	貝 類	鑛.....	鑛 物
昆.....	昆 蟲	天.....	天 文
魚.....	魚 類	地.....	地名, 地質
鳥.....	鳥 類		

* 尚ほこの他 人名 文法 庭球 映畫 寫眞 印刷 鐵道 生物 相場
等の自明なる記號を用ひた

参 考 目 書

1. Brockhaus: Der Sprach-Brockhaus. Leipzig 1935.
2. Brockhaus: Der Große Brockhaus. Berlin.
3. Dornseiff, F.: Der deutsche Wortschatz nach Sachgruppen. Berlin und Leipzig.
4. Duden: Der Große Duden. a) Rechtschrei-

- bung. Leipzig 1934. b) Stilwörterbuch. 1934.
c) Bildwörterbuch. 1935.
5. Heintze, A.: Deutscher Sprachhort. Leipzig.
 6. Hereward-Price: Volkswirtschaftliches Wörterbuch.
 7. Heyse-Lyon-Scheel: Allgemeines verdeutschendes u. erklärendes Fremdwörterbuch. Hannover.
 8. Kluge, F.: Etymologisches Wörterbuch der deutschen Sprache. Berlin und Leipzig.
 9. Lange, R.: Japanisch-deutsches Wörterbuch.
 10. Langenscheidts Sprachführer für den Sportsmann.
 11. Lehrbücher des Seminars für Orientalische Sprachen in Berlin. Berlin.
 12. Meyer: Meyers Lexikon. Berlin.
 13. Meyer: Meyers Blitz-Lexikon. Leipzig.
 14. Muret-Sanders: Enzyklopädisches englisch-deutsches und deutsch-englisches Wörterbuch. Große Ausgabe. Berlin.
 15. Paul, H.: Deutsches Wörterbuch. Halle.
 16. Pekrun, R.: Das deutsche Wort. Leipzig 1934.
 17. Pinloche, A.: Etymologisches Wörterbuch der deutschen Sprache. Paris.
 18. Sanders, D.: Wörterbuch der deutschen Sprache. Leipzig.
 19. Sanders-Wülfing: Handwörterbuch der deutschen Sprache. Leipzig.

20. Seidel, A.: Wörterbuch der japanisch-deutschen Umgangssprache. Berlin.
 21. von Lipperheide, F.: Spruchwörterbuch. München.
 22. Weidemann, G.: Wörterbuch der deutschen Sprache. Halle-Saale. 1931.
 23. Weigand, Fr. L. K.: Deutsches Wörterbuch. Gießen.
-

a (啞) *n.* die Stummheit; (其の人) der Stumme*.

ā (あゝ) *int.* (驚愕) o!; oh!; o Gott!; ach Gott!; mein Gott!; guter Gott!; o Himmel!; herrje!; herrjeses!; herrjemeine!; na nu! (驚愕, あきれ); (意外) ei! ☆あゝと言ふ間に im Nu; im Moment. 一人をあゝと言はせる *jn.* in Erstaunen setzen; *jn.* überrä'schen. 驚愕 *atto* (あゝと).

あゝ財布が無くなつた。Mein Gott, meine Börse ist verschwunden. —あゝ痛ゝ。Au! / Au weh! —あゝ番生奴。Ei der Tausend! —あゝ奴が来た。Ei, da kommt der Kerl! —彼の業績は世間をあゝと言はせた。Seine Tat setzte die Welt in Erstaunen. / Seine Tat kam den Menschen über-raschend.

ā (嗚呼, 干嘔, 噎) *int.* 1. [一般の感動] o!; oh!; ach!; ah! (喜, 驚, 威服); aha! (嘆息, 驚, 満足); (悲憤) o weh!; (驚愕) 驚 *ā* (あゝ).

あゝ嬉しい。Oh, wie freue ich mich! / Oh, wie froh bin ich! —あゝ面白い。Oh, wie interes-sant! —あゝ困つた。O Himmel! / Gott steh mir bei! —あゝ有難や。Gott sei Dank! / Gott Lob! / Dem Himmel sei Dank! —あゝつらいな。O weh! —あゝ大變。Ach Gott! / Mein Gott! / Guter Gott! / Du lieber Himmel! —あゝしまつた。O weh, das ist schlimm. —あゝあゝ(大變な事になつた)。Ach Gott! / (嘆息) Huch (Aha)! —あゝ厭やだ。O pfui doch! —あゝ不仕合せだ。Ach, ich Unglücklicher! —あゝ可哀相に。Ach, der arme Mann! —あゝわかりました。(相手の言つたことか) Ah! Ich habe es verstanden. (説明などされて)。/ Ich bin im Bilde. (色々事情などよく話されて)。/ (わからない事, 忘れた事などを思ひつた時) Ich hab's. —あゝさうですか。Ach so! / Aha! (ははあ)。 —あゝ到頭来た。Na, endlich sind (wären) wir da! —あゝどうしたらよいだらう。Ach, was soll ich anfangen? —あゝ来てくれるとよいか。Oh, käme er doch! —あゝどうかさうなつてくれればよいかなあ。O wollte doch Gott! —あゝ早く癒つてくれればよいが。Ach, daß er doch bald gesund wäre! —嗚呼患臣補氏の墓。Ach, hier ruht der treue Kusunoki!

2. [呼掛け] o!; höre mal!; hallo!

あゝお母さん。O Mutter! —あゝ君。Du, höre mal! —あゝあのちよつと。Einen Moment (Augenblick), bitte! / Hallo, einen Moment, bitte! (人が少し遠くにはなれてゐる時)。 —あゝもしも

ā (あゝ) *ad.* (肯定) ja; (否定) nein. [し。Hallo!] あゝさうだよ。Ja, es ist so. —あゝまあ勝手にするかい。き。 Gut, du magst (kannst) es tun, wie du willst.

aa (如彼) *ad.* so. ☆ああ言ふ風に so; auf solche Weise; in solcher Weise; auf solche Art; solcher-weise; solchermäßen; (かう言ふ風に) auf diese Weise; in dieser Weise; derart; dergestalt. —ああ言ふ(様な) so ein; solch ein; (ein) solch; derartig; dergleichen (斯くの如き, 斯かる種類の)。

—ああ言ふ場合に in solchen (dergleichen) Fällen; solchensfalls. —ああ言ふ事 so etwas; so was. —ああ言ふ人間 so ein Mensch; solch ein Mensch; (ein) solcher Mensch. —ああは見えても wenn es auch so aussieht. —ああ言ふけれども obgleich er es sagt; wenn er es auch sagt.

彼はああ言つたりかう言つたりする。Er spricht bald so, bald so. —彼は昔は誰かにああではなかつたが。So war er doch früher nicht. —ああも考へたりかうも考へたりした。Ich dachte bald dieses, bald jenes. —君はああ言へばかう言ふ。Du willst immer das letzte Wort haben. —彼がああまで有名とは知らなかつた。Ich wußte nicht, daß er so berühm ist. [antimonige Säure.]

a-anchimonson (亞アンチモン酸) *n.* 花

aba (網端, 浮子) *n.* der Kiel, -(e)s, *pl.* -e.

abaku (發く) *v.* 1. [暴露する] enthüllen; ent-decken; aufdecken; bloß/legen; bloß/stellen; ans Licht bringen; zutage bringen (fördern); ent-larven (假面を剥く)。☆秘密を發く ein Geheimnis enthüllen (aufdecken; bekannt machen)。—犯罪を發く ein Verbrechen ans Licht bringen。—悪漢の正體を發く einen Schurken bloß/stellen (entlarven)。—陰謀を發く eine Verschwörung aufdecken。—人の非を發く *js.* Unrecht zutage (an den Tag) bringen。—古疵を發く eine alte Wunde aufwühlen。

2. [發掘する] (wieder) ausgraben; aufbrechen (墓を)。☆墓を發く ein Grab aufbrechen。—死骸を發く einen Leichnam ausgraben。[*pl.* -en.]

abara (あばら) *n.* die Öde, *pl.* -n; die Verödung。

abara (肋) *n.* (肋骨) die Rippe, *pl.* -n; (脇) die Brustseite, *pl.* -n. ☆人の肋を突く *jn.* in die Rip-pen stoßen; *jm.* eins in die Rippen geben。

abarabone (肋骨) *n.* die Rippe, *pl.* -n. ☆肋骨を挫折する sich (*Dat.*) eine Rippe brechen; einen Rippenbruch bekommen; sich (*Dat.*) einen Rip-penbruch zu'ziehen。

abaraya (あばら屋) *n.* (破屋) das verfallene (bau-fällige) Haus, -es, *pl.* -er (老朽, 腐朽せる家); das öde (verödete; verlassene; ruinenartige; ruinen-hafte) Haus, -es, *pl.* -er (荒涼たる家); (亭舎) die Hütte, *pl.* -n; (弊屋) das bescheidene Heim, -(e)s, *pl.* -e.

ひどいあばら屋ですから修繕の見込はありません。Das Haus ist so verfallen, daß alle Reparaturen aussichtslos sind。 —ようこそこんなあばら屋に御出で下さいました。Seien Sie mir willkommen in meinem bescheidenen Hause!

abare (暴れ) *n.* 1. [暴行, 暴虐] die Gewalttat, *pl.* -en; die Gewalttätigkeit, *pl.* -en; die Gewaltsamkeit, *pl.* -en; der Gewaltstreich, -(e)s, *pl.* -e; (亂暴, 狂暴) der tolle Streich, -(e)s, *pl.* -e; der Unfug, -(e)s; die Raserei, *pl.* -en; die Wildheit, *pl.* -en (粗暴); (亂暴者) 暴 *abaremono* (暴れ者)。

2. [放蕩] die Ausschweifung, *pl. -en*; die Liederlichkeit, *pl. -en*; die Lasterhaftigkeit, *pl. -en*; die Lockerheit, *pl. -en*; die Unzucht (淫亂); die Prasserei, *pl. -en* (逸樂); (放蕩者) **abaremono** (暴れ者).

abare-dasu (暴れ出す) *v.* wild werden*; (暴行に及ぶ) zu Gewalttätigkeiten schreiten*; in Gewalttätigkeiten ausbrechen* (急に).

abaregui (暴れ食) *n.* das Fressen, *-s*; die Gefräßigkeit. **bōshoku** (暴食).

abarekko (暴れ兒) *n.* (亂暴な子) das wilde (ungebärdige) Kind, *-(e)s, pl. -er*; (腹白者, 惡戯兒) das ausgelassene (mutwillige) Kind, *-(e)s, pl. -er*; der lose Bube, *-n, pl. -n*; der kleine Bösewicht, *-(e)s, pl. -e od. -er* (俗); der (kleine) Schelm, *-(e)s, pl. -e*; der kleine Schalk, *-(e)s, pl. -e od. -e* (茶目じみた); der kleine Strick, *-(e)s, pl. -e* (冗談に言ふ); der Spitzbube, *-n, pl. -n* (愛稱呼); (無作法, 不行儀の子) das unartige (ungezogene; unmanierliche) Kind, *-(e)s, pl. -er*.

abare-komu (暴れ込む) *v.* wild einstürmen (in *Akk.*); (侵入する) einbrechen* (in *Akk.*); einbringen* (in *Akk.*; bei *jm.*).

彼は私のところに暴れ込んで何でも彼でも手當り次第にぶち毀した。Er drang in mein Haus (bei mir) ein und zerschlug aufs Geratewohl alles, was ihm in die Hände kam.

abare-mawaru (暴れ廻る) *v.* wild umher'springen*; (暴れ狂ふ, 狂ひ廻る) rasen; toben; wüten; stürmen; tumultuieren; tolle Streiche machen (亂暴狂騒をする)。 [durch das Haus.]

彼は狂氣の如く家中を暴れ廻つた。Er stürmte | **abaremono** (暴れ者) *n.* 1. (亂暴者) der wilde Mensch, *-en, pl. -en*; der Rohling, *-s, pl. -e*; der rohe Bursche, *-n, pl. -n* (粗暴な野人); der Raufbold, *-(e)s, pl. -e* (喧嘩好きな無法者); der Renommist, *-en, pl. -en* (暴慢者).

2. [放蕩者] der ausschweifende (liederliche; lasterhafte; wüste) Mensch, *-en, pl. -en*; der lose Vogel, *-s, pl. -s*; der lockere Zeisig, *-(e)s, pl. -e*; der Wüstling, *-s, pl. -e*; Hans Liederlich; der Liederjahn (Liederian), *-(e)s, pl. -e*; der Wolüstling, *-s, pl. -e* (多淫の人).

abareonna (暴れ女) *n.* (淫奔, 淫気, 蓮葉な女) das lose (liederliche; zuchtlose; unzüchtige; schamlose) Mädchen, *-s, pl. -s*; die leichtfertige Dirne, *pl. -n*; (お轉染) das wilde (ausgelassene) Mädchen, *-s, pl. -s*; die wilde Hummel, *pl. -n*; die Range, *pl. -n*.

abareru (暴れる) *v.* 1. (亂暴に振舞ふ) sich roh (wild) benehmen*; über die Stränge schlagen* (恣まにに振舞ふ); (暴れ狂ふ) toben; rasen; tollen; wüten; stürmen; tolle Streiche machen (亂暴狂騒をする); (大騒ぎをする) poltern; toben; rasen (亂暴な底抜け騒ぎをする); tollen Lärm machen (亂痴氣騒ぎをする); (暴行をする) Gewalttätigkeiten begehen*; Unfug treiben*; (暴動を起す) sich empören (sich erheben)*; sich auflehnen (gegen *Akk.*); einen Aufstand (Aufruhr; Aufauf) erregen; (馬が暴れる) wild werden*; störrisch (statisch) werden* (前へ進まうともしなくなる); über die Stränge schlagen* (馬車馬が挽綱を破越える)。☆酔うて暴れる in der Betrunkenheit tollen; im betrunkenen Zustand öffentliches Ärgernis erregen (あばれて人の憤激を買ふ).

暴れたら構はんから縛つてしまへ。Wenn er sich gewalttätig benimmt, so binde ihn ohne weiteres! — 捕虜が暴れて番兵を傷けた。Die Gefangenen sind aufständisch geworden und haben die Wachen verwundet.

2. [放蕩する] (放蕩な身持ちである) einen liederlichen (ausschweifenden; lasterhaften; zügellosen) Lebenswandel führen; aus'schweifen; (放蕩な生活を送る) ein lockeres (loses; widerliches; wüstes; ausschweifendes) Leben führen; locker leben; in Saus und Braus leben (淫酒に耽りて暮す).

彼は昔は随分暴れたものだが此の頃はすつかり堅氣になつた。Er hat früher sehr ausschweifend gelebt, hat sich aber in letzter Zeit die Hörner abgelaufen.

abareuma (暴れ馬) *n.* das störrische (statische; unbändige) Pferd, *-(e)s, pl. -e* (御し難き馬, 前に進まうともせぬ馬); das feurige (wilde) Pferd, *-(e)s, pl. -e* (驛馬); das durchgehende Pferd, *-(e)s, pl. -e* (奔馬)。☆暴れ馬を調教する ein wildes Pferd bändigen (zähmen).

これは随分暴れ馬ですから乗れるまでに仕込めない位です。Das Pferd ist sehr wild, und man kann es kaum zum Reiten abrichten.

abari (網針) *n.* (網す針) die Netznadel, *pl. -n*; (網細工針) die Filetnadel, *pl. -n*.

abata (痘痕) *n.* die Narbe, *pl. -n*; die Blatternarbe, *pl. -n*; die Pockennarbe, *pl. -n*. ☆痘痕のあき pockig; pockennarbig; blatternarbig; mit Narben bedeckt (痘痕満面の)。—痘痕面 das pockennarbig (blatternarbig; mit Narben bedeckte) Gesicht.

僕は痘瘡に罹つたが非常に軽かつたので痘痕にはならなかつた。Ich wurde von den Pocken befallen; da sie aber sehr leicht waren, haben sie keine Narben hinterlassen. — 惚れた翌目には痘痕も突痒。Wer in eine Frau vernarrt ist, dem scheint auch eine Pockennarbe wie ein Grübchen. / Einem verliebten Auge erscheint alles schön. / Die Liebe macht blind. — あの人はいほど痘痕面だ。Sein Gesicht ist schrecklich durch Narben entstellt. [lebewohl!; adieu!]

abayo (あばよ) *int.* da-da!; auf Wiedersehen!;

abazure (阿婆摺) *n.* die Durchtriebenheit; die Verschmittheit, *pl. -en*; die Geriebenheit; (厚顔, 破廉恥) die Frechheit, *pl. -en*; die Unverschämtheit, *pl. -en*; die Schamlosigkeit, *pl. -en*. ☆阿婆摺の(すれつからしな) durchtrieben; verschmitzt; gerieben; (厚顔破廉恥の) frech; unverschämt; dreist (人前で平氣な様な)。—阿婆摺女 die wilde Hummel; das freche (durchtriebene) Weib (Mädchen).

abekobe (あべこべ) *n.* (反對, 逆) das Gegenteil, *-(e)s, pl. -e*; das Entgegengesetzte*; das Umgekehrte*; die Umkehrung, *pl. -en*; (反對にする事, 顛倒する事) die Umkehrung; (倒錯) die Verkehrtheit, *pl. -en*. ☆あべこべな (反對の) gegenteilig; entgegengesetzt (相反する)*; (逆の, 倒さの) umgekehrt; verkehrt. —あべこべに (逆に) umgekehrt; verkehrt; andersherum; vice versa; (裏を表に) das Innere nach außen; (上を下に) drunter und drüber; das Oberste zu unterst; kopfüber, kopfunter; (却て) im Gegenteil; (むしろ) vielmehr. —あべこべにする umkehren; verkehren; das Innere nach außen kehren (裏を表に向ける); das Unterste zu oberst kehren (das Oberste zu unterst kehren) (上下を顛倒する); *etw.* auf den Kopf stellen (倒さに立てる)。—順序があべこべになつてゐる in umgekehrter (verkehrter) Reihenfolge (Ordnung) sein*。—あべこべな事をする die Pferde hinter den Wagen spannen (das Pferd beim Schwanz zäumen) (本来, 順序を顛倒する); was rechts ist, links machen (理非を轉倒する)。—あべこべの方向へ行く

nach der umgekehrten Richtung gehen*; in entgegengesetzter Richtung gehen*. —杖をあべこべに持つ einen Stock verkehrtherum halten*. —上着をあべこべに着る einen Rock verkehrt anziehen*. —靴をあべこべに履く die Schuhe verkehrt anziehen.*

事實は正さしにあべこべだ。Der Fall ist gerade umgekehrt. —期待とはまるであべこべな結果になつた。Das Ergebnis ist das gerade Gegenteil von dem, was wir erwartet haben. —褒められるどころかあべこべに叱られた。Statt gelobt zu werden, wurde er getadelt. —あべこべに私の方から御禮を申さねばならぬ所です。Vielmehr bin ich es, der Ihnen danken muß. —彼はいつも其の言ふところとあべこべのことをする。Er tut immer gerade das Gegenteil von dem, was er sagt.

Abe-maria (アベ・マリア) *n.* Ave Maria.

abi (阿鼻) *n.* 國 *Avici* (梵). [「羅」]

abi (阿比) *n.* 國 der Taucher, *-s, pl. -*; *columbus*

abi (浴) *n.* das Bad, *-(e)s, pl. -er*. ☆一浴びする ein Bad nehmen*.

abibatchi (阿毘跋致) *n.* 國 *Avavarti* (梵).

abidatsuma (阿毘達摩) *n.* 國 *Abhidharma* (梵).

abiki (網引) *n.* 船 der Fischzug, *-(e)s, pl. -e*.

abiku (網引く) *v.* das Fischnetz einziehen*; das Fischnetz einholen.

abi-kyōkan (阿鼻叫喚) *n.* der Schmerzensschrei, *-(e)s, pl. -e*; das gellende Geschrei *-(e)s* der Qual. ☆阿鼻叫喚の巷 der herzerreißende Schauplatz der Schmerzensschreie; die Szene der äußersten (chaotischen) Verwirrung (大混亂の巷); die Szene des Höllenlärms (地獄の騒ぎの様な巷).

阿鼻叫喚の巷と化せり。Es wurde ein richtiger Hexenkessel. / Es verwandelte sich in eine Szene der höchsten Verwirrung.

abiru (浴びる) *v.* 1. [水等をかぶる] sich übergießen* (*mit Dat.*); (入浴する) (sich) baden; ein Bad nehmen*; (濯水浴する) sich duschen; eine Dusche (ein Duschbad; ein Gießbad; ein Brausebad) benutzen. ☆冷水を浴びる(かぶる) sich mit kaltem Wasser übergießen*; sich (*Dat.*) kaltes Wasser über den Kopf gießen* (頭から); (水浴する) ein kaltes Bad nehmen*; sich kalt baden; sich in kaltem Wasser baden. —海で浴びる in der See baden; Seebäder nehmen*. —川で浴びる ein Flußbad nehmen*. —ひと風呂浴びる ein Bad nehmen*. —浴びる程飲つて saufen*; (*Sake*; *Bier*) wie Wasser trinken*; sich die Nase begießen* (痛飲する). —大浪を浴びる (船か) eine Sturzsee (über Deck) bekommen*.

2. [光を] baden; beschienen werden* (照らされる). ☆日光を浴びる im Sonnenlichte baden; sich sonnen (日向ぼっこをする); von der Sonne beschienen werden* (太陽に照らされる). —月光を浴びる im Mondlicht baden; vom Mondlicht übergossen werden*; vom Mondlicht bestrahlt werden* (照らされる).

彼は月光を浴びて佇んでゐた。Er stand vom Mondlicht übergossen da.

3. [受ける, 蒙る] leiden*; erliden*; sich aussetzen (身をさらす). ☆惡罵を浴びる mit Schimpf überschüttet werden*. —砲火を浴びる mit Geschossen überschüttet werden* (浴びてゐる) im Feuer stehen*; dem Feuer ausgesetzt sein* (砲火に身を晒してゐる). —腹背に敵の砲火を浴びて zwischen zwei Feuern. —火の粉を浴びる im Funkenregen stehen*. —嵐の如き喝采を浴びて unter stürmischem Beifall. —太刀浴び

る einen Schwertschlag bekommen*.

abiseru (浴びせる) *v.* (水等を) übergießen* (*mit Dat.*); (惡口等を) überschütten (*mit Dat.*). ☆人に水を浴びせる *jm.* mit Wasser übergießen*; *jm.* Wasser über den Kopf gießen* (頭から). —人に光を浴びせる *jm.* mit Licht übergießen*. —人に罵詈雑言を浴びせる *jm.* mit Schimpf übergießen* (überschütten). —人に色々な質問を浴びせる *jm.* mit Fragen überschütten. —敵に砲火を浴びせる den Feind mit Geschossen überschütten; auf den Feind Kugeln regnen lassen*; dem Feinde heftiges Feuer geben*; auf den Feind losfeuern. —拍手喝采を浴びせる *jm.* mit Beifall überschütten. —太刀を浴びせる *jm.* einen Schwertschlag geben* (versetzen). —人にある事の罪を浴びせる *jm. etw.* zur Last legen; *jm. etw.* aufbürden; *jm.* einer Sache (*Gen.*) beschuldigen; *jm.* die Schuld beimessen* (zuschreiben*); zuschreiben*.

冷水を浴びせられた様にぞとした。Ein kalter Schauer lief mir über die Haut. —背中から冷水を浴びせられた様な気がした。Es lief mir kalt über den Rücken. —餘りむかついたので顔に水を浴びせかけてやつた。Er reizte mich so, daß ich ihm Wasser ins Gesicht schüttete.

Abishinia (アビシニア) *n.* 國 Abessinien, *-s*; Ha-besch, *s.* ☆アビシニアの abessinisch. —アビシニア人(男) der Abessinier; (女) die Abessinierin.

abu (虻) *n.* 國 die Bremse, *pl. -n*; die Bremsfliege, *pl. -n*; die Biesfliege, *pl. -n*. ☆えぞ大虻(馬につく) die Pferdebremse; die Pferdefliege. —牛虻 die Rinderbremse.

虻蜂取らず。Man setzt sich zwischen zwei Stühle. / Wer zweierlei zugleich will, bekommt keines von beiden.

abudon (頰部曇) *n.* 國 *Arbuda* (梵).

abuku (泡) *n.* die Blase, *pl. -n*; der Schaum, *-(e)s, pl. -e*. ~~泡~~ *awa* (泡). ☆ビールの泡 der Bier-schaum. —石輪の泡 der Seifenschaum; die Seifenblase (しよばん玉).

abuku-gaisha (泡會社) *n.* die Schwindelgesellschaft, *pl. -en*.

abuku-zeni (泡銭) *n.* das zu leicht erworbene Geld, *-(e)s, pl. -er*; das mühelos gewonnene Geld, *-(e)s, pl. -er*; das unrechte Gut, *-(e)s, pl. -er* (不義の財). [Unrecht Gut gedeih(e)t nicht.]

泡銭身に附かず。Wie gewonnen, so zerronnen. /

abumi (籠) *n.* der Bügel, *-s, pl. -*; der Steigbügel, *-s, pl. -*; das Steigeisen, *-s, pl. -*. ☆籠の無い bügellos; ohne Bügel. —籠をしつかりと踏んで bügelfest. —籠をふんばる in den Steigbügeln stehen*. —籠をふみ外す aus den Steigbügeln rutschen; die Steigbügel verlieren*.

abumi-gawa (籠革) *n.* der Steig(bügel)riemen, *-s, pl. -*; der Bügelriemen, *-s, pl. -*.

abumiita (足踏板) *n.* der Bohlenweg, *-(e)s, pl. -e*.

abumikabura (籠蓆) *n.* 國 *brassica* (羅).

abumi-shi (籠師) *n.* der Steigbügelfabrikant, *-en, pl. -en*; der Steigbügelmacher, *-s, pl. -*.

abumi-zure (籠糞れ) *n.* die von den Bügeln verursachte Scheuerspur, *pl. -en* (an den Flanken des Pferdes).

abunagaru (危ながる) *v.* (危ないと思ふ) für gefährlich halten*; (恐はがる) sich fürchten (*vor Dat.*); Furcht haben* (fühlen) (*vor Dat.*); (氣遣ふ) fürchten; befürchten; besorgen; besorgt sein* (*um Akk.*; *für Akk.*; *wegen Gen.*, 氣遣つてゐる); Angst haben* (*vor Dat.*, 氣にかけてゐる,